

## 「私には、友達がいる」

育英西中学校 1年 吉村 一花

私は低学年の頃、友達がいなく、一人ぼっちでした。その頃は、友達がいらないほうが楽、友達はただの話相手、友達は邪魔な人だと思っていました。だから私は、友達を作ろうとも思いませんでした。

友達を作らないほうが楽だと思ったきっかけがあります。それは、私が1年生の頃、昼休みに一人で絵を描いていた時でした。私は、小さい頃から絵を描くことが好きで、授業が終わると毎日、机の中から自由ノートを取り出して絵を描いていました。すると、毎日友達が私に「また絵を描いてるの？せっかくの昼休みなんだから、なんか話そうよ」と話しかけてきます。話しかけてくれるのはとても嬉しいのですが、絵を描くことに集中したいので、邪魔だなと思っていました。本を読んでいるときも、勉強しているときも、集中したいのに喋りかけてきます。私はその毎日が、苦痛でした。

ある日私は、友達に「今集中したいの。関わらないでほしいな」と強い口調で言ってしまいました。そのことがきっかけで、お互い話さなくなってしまうました。でも、なんだか気が楽になりました。気を使わなくてもいいし、ゆっくりと一人で絵を描くことができるからです。私は友達と一緒にいるのが、得意な人間じゃないんだとこのとき自覚しました。それから、友達を作らないでおこうと決意しました。

しかし、中学年になるにつれて、自分だけ友達がいなくて気が付きました。そのことが、なんだか悔しくて悲しかったです。だから、もう一度友達を作ろうと思いました。しかし、どうやって友達を作ればいいのかわからなかったのです。考えるほど、友達って何なのかわからなくなり、諦めることにしました。

ある時、社会の授業で「グループで歴史人物について調べて、ポスターを作ろう！」という授業がありました。グループでポスターを作る時、私はいつもそばで見ているだけでした。「邪魔だな」と言われるのが怖かったからです。もちろん「手伝ってよ」と言われたら手伝いますが、ほとんどは離れてみんなの作業を見ているだけでした。「私がいなくてみんなはやりやすいし、良いポスターが作れる」そう思うてしまいます。しかし、今回は違いました。私の方にも、意見を聞いてくれる子がたくさんいました。私はびっくりしました。前の人は私のことを気にかけることもせず、作業を進めていたのに、この人たちは私のことを気にかけて、意見を聞いてくれました。とても嬉しかったです。私たちは、話し合っているうちに仲良くなり、友達になりました。小学1年生になったばかりの頃、友達は邪魔な人、友達はただの話相手だと思っていましたが、違いました。友達は「私を支えてくれる人間」でした。困ったときは、お互いに助け合い、嬉しいことや嫌なことがあったら、分かち合う関係のことを友達ということがわかりました。

小学1年生の頃の友達に悪く言ったことをとても後悔しています。なぜあんな事を言ってしまったんだろうと今でも考えます。あの時、「今、絵を描きたいの。良ければ一緒に絵を書かない？楽しいよ」と言えばよかったと思います。あの子は何も悪いことをしていないのに、強い口調で言ってしまいました。でもこの経験で、次からは友達を大切にしようということを、学びました。

ところであなたは、「友達100人できるかな」という、歌があるのをご存知ですか？私は小学生になる前に、母に聞かされたことがあります。その頃私は「友達100人ほしい！みんなで遊びたい！」と言っていました。確かに、たくさんの友達と遊ぶのは楽しいけれど、今の私は、数は少なくてもいいから、信頼できる友達を作りたいです。あなたは、どちらを選びますか？